

田岡化学工業株式会社
2026年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2026年5月26日（火）11時～11時30分

当社説明者： 取締役社長 岩崎 明
常務理事 事業支援室長 堀内 真二

[説明内容]

5月26日に開示した全16ページのPDFに沿った説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202603_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<樹脂原料について>

質問1 対抗品とは具体的にどのような製品か。また新規開発品の早期導入や工場稼働率の向上等について具体的な内容を教えてほしい。

回答 対抗品とは、当社の顧客が製造している製品に対する対抗品のことであり、顧客からは顧客製品の同等品を製造しようとする動きがあったように聞いている。
樹脂原料はレンズの進化に伴い高屈折率品へと需要がシフトしていくため、顧客要望に応えるべく高付加価値な新規開発品へと製品構成を見直し、収益改善に注力していく考えである。また、製品構成を見直す中で製品特性に見合った最適な製造プラントの選定など、従来製品についてもコスト競争力のある最適な生産体制を構築することで、早期の業績回復に向けて取り組んでいきたい。

質問2 車載向けレンズ用途での新製品の動きはあるか。

回答 車載用途での採用も進んでいると聞いているが、車載用途向けの当社ポリウムは小さく当社への利益貢献は少ないと考えている。

<今後の見通しについて>

質問3 樹脂原料の今後の需要見通しについて、どのように見ているか。

回答 当年度における販売数量減の見通しは、顧客において一定程度の在庫調整が発生したことと、半導体関連部材の不足によるスマートフォン生産台数の減少が要因

と見ている。在庫調整も一巡し、またスマートフォンの生産台数についても来年以降増加に転じればプラス要素となり得るため、現時点では当年度を底として、来年度以降は回復に転じるものと想定している。

質問4 四半期ベースで見て、利益のボトムはいつ頃となりそうか。

回答 現在、原油価格等の高騰を受け、価格転嫁が進められているが、在庫していた原料の払い出しもあり、初期の段階では売価と原料価格の間にズレが生じる。また原料価格下落時には逆の動きとなり得るため、現時点では四半期ベースで利益のボトムがいつになるのか見通すことは難しいものと考えている。

<親子上場について>

質問5 住友化学における親子上場の整理が進む中で、当社の上場の意義や親子間での話し合いの状況、ベストオーナーについての考えを聞かせてほしい。

回答 最近、住友化学で親子上場整理の動きがあることについては承知しているが、現在当社において同様の動きがあるわけではない。

今後のあり方については親会社である住友化学の経営判断となり、その中には同社以外によるベストオーナーという選択肢も含まれると思われるが、現時点では一切感知していない。当社としては株主の皆様のご期待に応えられるよう、持続的な成長と企業価値の向上に専念したいと考えている。

以上